

2006 年 9 月 26 日（火）

保護者各位

遺愛女子中学高等学校
防災チャレンジ委員会

緊急時の避難先・連絡先の確認のお願い

中秋の候、保護者の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃より、遺愛の教育活動に深いご理解とご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。

さて、遺愛は今年、文化庁からの依頼があり、『防災教育チャレンジプラン』に参加し、「文化財である校舎を災害から守るために、私たちにできる事」と題して、防災教育に取り組んでいます。6 月には遺愛のまわりの町内会の方々をお招きし、避難場所としての遺愛を知っていただき、あわせて本館や初臼ハウス（旧宣教師館）、講堂などの国の文化財を見学していただきました。また、7 月末には 3 日間初臼ハウスを一般公開し、最終日に消防署に来ていただき、火災に備えて放水訓練をしました。また、9 月 5 日には遺愛の中学・高校生全員にアンケートをとり、どのくらい防災意識をもっているか調査しました。そして本日 9 月 26 日には、午後の時間をさき避難訓練を行い、その後、文化庁審議官の長尾氏により「遺愛の文化財の歴史的価値について」講演していただきました。

これらの取り組みのなかで、生徒のアンケート結果より気になる点がありましたので、ご家庭でもお話し合いを、ぜひしていただければと思います。

生徒たち自身、地震、駒ヶ岳の噴火、台風、大雨の被害の可能性を予測しつつも、家庭で十分な災害に対する備えをしていないということがアンケート結果より見えてきました。具体的には、

「災害時の家族の連絡方法を定めているか？」	72.9%の生徒が定めていない。
「災害時の避難方法を定めているか？」	84.0%の生徒が決めていない。
「避難場所を知っているか？」	45.4%の生徒が知らない。
と答えていました。	

学校にいる時の災害は、学校が避難所になりますが、帰宅途中、外出中はどうするか？ぜひ話し合っておいて下さい。連絡方法については、災害時は携帯電話が使用できないので、どうするか？また、自宅の指定の避難場所も家族で確認しておいて下さい。

災害は起こってほしくないのですが、いつ起こるかわかりません。もしもの事態に備えて、家族の間でも充分その対応について、話し合い確認しあって下されば幸いです。

以上